



## 大川家住宅

自然豊かな梅田町1丁目に3連のノコギリ屋根工場と住宅が静かに佇み、すぐ近くを桐生川が流れている。住居部分の朱色の屋根が背景の山々に映え、里山の原風景を感じさせる。

現当主大川敏男氏の父は、材木商として村有林を管理し炭や薪を作っていた。大川織物工場を創業し、養蚕のほか酒屋も経営するなど手広く商売をしていた。昭和28年に合資会社おおかわを立ち上げ、主に輸出用のスカーフや人絹マフラーなどを生産していた。当時は、20台以上の織機が動き、染色や整経も行い、30名ほどいた従業員は、主屋の2階に住み込んで働いていた。

3連のノコギリ屋根工場は約100坪。昭和28年当時、新築が禁止されていたため、梅田の中山織物から譲り受けて1棟を建設し、以後1年ごとに増設していった。平成20年に事業を止め、現在工場は使われていない。

住居は、昭和初期に立てられたもので、築80年以上。二階部分は蚕室として使われていた形跡が屋根に残っている。周囲は栗の木の塀に囲まれており、住宅とノコギリ屋根工場が一体となり、織物のまち桐生らしい風景を醸し出している。

所在地 桐生市梅田町4-594  
所有者 大川 敏男